

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○目的や意図に応じて、文章と図表を結びつけるなどして必要な情報を見つけることについては、比較的理解している。 ●文章の構成を考えたり、書き表し方の工夫を読み取ったりすることについての理解があまりできていない。	・日頃から行った活動の振り返りなど、言語化・一般化する活動を行い、語彙力を高める。
算数	○分数のたし算やはかりの目盛りを読むなどの基本的な力は、比較的定着している。 ●図形を選ぶ問題の正答率が低く、図形の意味や性質についてあまり理解できていないことがうかがえる。	・算数的な概念の意味理解をできるよう、当該学年だけでなく、くり返し取り上げ定着を図る。
理科	○電気の回路のつくりや磁力を強めるためのコイルの巻数の変え方などについては比較的理解できている。 ●受粉について理解していないなど、「生命」を柱とする領域の正答率が低い。	・実験や体験を中心とした授業を行うこと、その上で言葉を押さえていく。大切になる言葉は、繰り返し練習を行っていく。

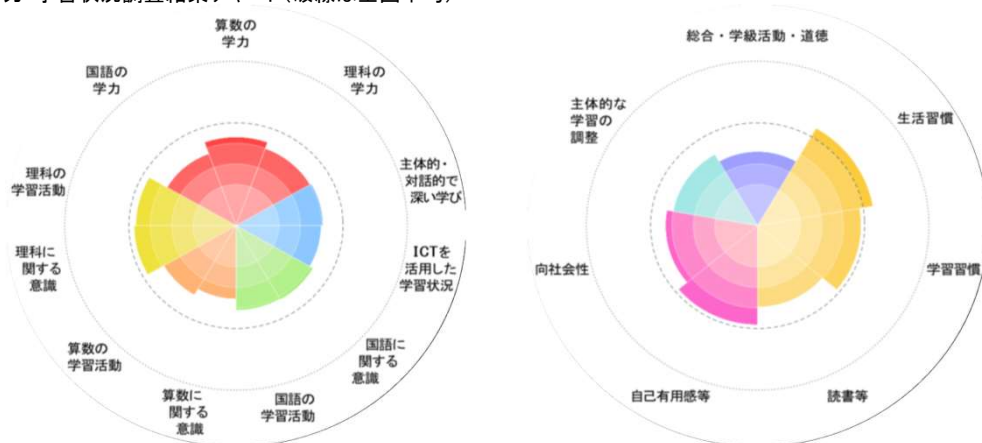
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自己肯定感が高く、将来についての意欲も高い。 ●学習時間が短く、課題設定や課題解決への取組など、自ら求めて学習しようという意欲が低い。	・家庭学習のてびきを活用して家庭学習の行い方を示す。 →ノートに貼るようにし、ノートが変わってもまた貼れるように印刷をしておくなど、日常的に児童が確認できるようにする。 →家庭との連携を図る。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・言語理解については、1年生から6年生までずっと積み重ねていかなければならないため、各学年で身に付けるべき用語を指導者がきちんと把握して指導に当たる。 ・授業内で言語化させる場面を増やし、作業的な活動に終始するのではなく、対話的な活動を取り入れる。 ・本に触れる機会を増やすなど、図書館教育の充実を図る。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

38

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

